

## しゅういんちょう 【菟印帖】

虫の音が聞こえはじめ、秋の気配が近づいてきたでしょうか。とは言え、まだまだ厳しい暑さは続いております。

夏休みや長期休暇などを利用して各地を観光する方々もいることと思います。昨今、神社仏閣を巡り、この時期ならではの「夏詣」や御朱印の収集、また、おでかけの記念にスタンプを集めている方も多いのではないのでしょうか。今月の“イッピン”は“實の印”にまつわる「菟印帖」をご紹介します。

そもそも御朱印とはどのようなもののでしょうか？「御朱印とは、もともと写経を奉納し、信仰の証としてお寺からいただく証書を指していました。お寺とご本尊の名前と当日の日付をしたため、朱で押印してもらうため「御朱印」と呼ばれてきたという由来があります。」

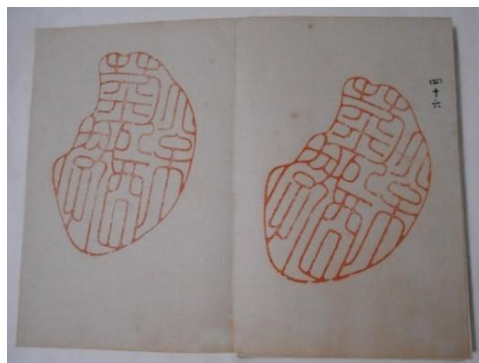
(原文ママ) <sup>(1)</sup>

今回ご紹介する「菟印帖」とは、お寺からいただいた印ではなく、斎藤家の印が押されたもので、印章の覚えとして残されていたものです。紙製ケースがついており、大きさは18cm×12cmとおおよそB6判サイズ。斎藤家の印や、實が揮毫の際に使用した落款印が押され、一番から四十六番まで番号を付け整理されています。また、「尊徳印規 相馬 鹿鳴荘」と表記された紙箱には木製印規(印を曲がらずに押すための道具)と一緒に収められています。

現在は御朱印帳が主流となっていますが、違う用途で使われていた「菟印帖」です。



菟印帖と紙製ケース（右側）



様々な印章

### 《引用文献》

- (1) “特集「御朱印のススメ」” 古川紙工オンラインホームページ <https://www.furukawashiko-online.shop>  
(参照 2026-08-25)